

セルフチェックシート

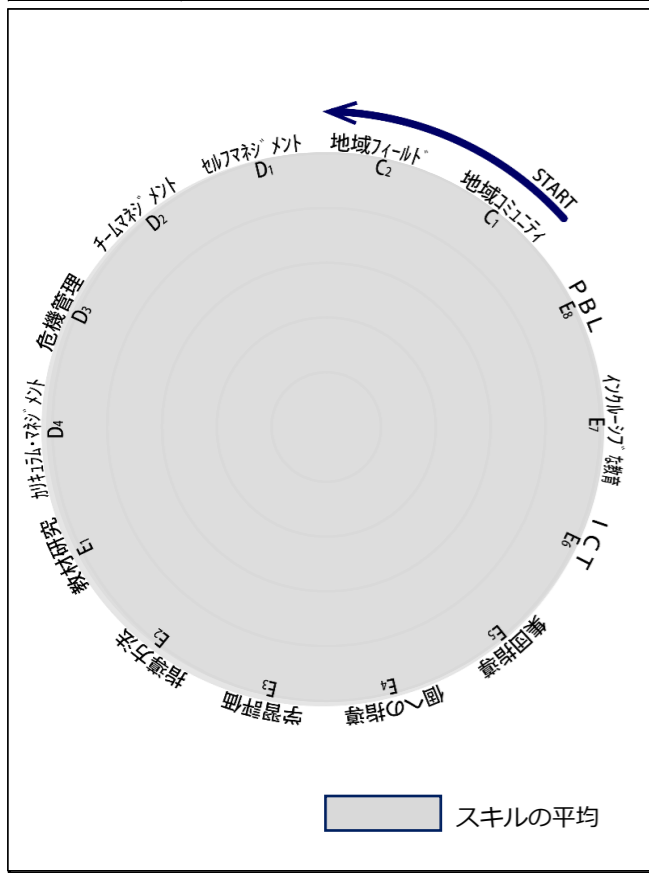
(次世代育成期/管理職期)

キャリアステージ **IV 次世代育成期相当 / 管理職期相当 (経験20年程度以上)**

学校名 _____

氏名 _____

職名 _____



セルフチェックのまとめ

理念指標	繰り返し自覚し絶えず意識化を図る資質能力		日頃の心構え
A 高い倫理観と使命感及び確かな子ども理解 ①社会の秩序と規律を遵守し、信頼される存在 ②教員としての責務の自覚 ③子どもに関する確かな科学的知見と深い人間愛			
B 確かな人権意識と共感力 ①全ての人の人権を尊重する態度 ②児童生徒や保護者の思いを感じ取る力			
実務指標	資質能力を支えるスキル	キャリアステージで身に付けるスキル	セルフチェック項目
C 連携・地域協働社会と力 D 目標実現に向け、柔軟に対応する力 E 「教育のプロ」としての高度な知識や技能	C1 地域コミュニティの拠点としての学校づくり	・地域と協働して児童生徒を育てる中で、地域コミュニティの拠点として、地域の活力・教育力の向上に貢献する。(管・次)	地域との関係を構築し、学校を核とした地域の活性化や地域の教育力の向上に貢献している。 地域の方々にとって学校が生きがいや学びの場となるよう、経験や専門性を発揮できるようにしている。 教員に向けた研修を実施したり、保護者に定期的に情報発信を行ったりしている。
	C2 地域をフィールドにした学びづくり	・学校と地域、学校間をつなぐネットワークを構築し、地域貢献につながる教育活動を展開する環境を整える。(管・次)	目指す子ども像や学校教育目標の具現に向け、地域と協力・連携する体制を整えている。 地域の方々の思いや願い、学校への要望等を敏感にキャッチし、学校・家庭・地域が一体となった学びの機会を実現しようとしている。 学校での取組の成果をより多くの地域の方々に発信し、地域と共にある学校づくりを推進している。
	D1 セルフマネジメント	・教員のロールモデルとしての役割を自覚し、自らの専門性や経験に基づいて、後進の指導にあたる。(管・次)	これまでに自身が培ってきた専門性や、数多くの豊富な経験を基に、教職員の先導役として、状況に応じた指導にあたっている。 各自の持ち味を生かし、役割を分担しながら適材適所で指導にあたっている。 自分の役割を自覚し、使命感と責任感をもって愛情深く子どもの指導にあたる教職員を育てている。
	D2 チームマネジメント	・教職員一人一人が持っている力を引き出し、学校教育目標の達成を目指す組織文化を醸成する。(管) ・「チーム学校」の実現を通じて、複雑化・多様化した課題を解決に導いたり、教員が児童生徒と向き合う時間的・精神的な余裕を確保したりする。(管・次)	教職員一人一人が持っている力を引き出し、学校教育目標の達成を目指す組織文化を醸成している。 教職員や、専門スタッフ、地域人材等が連携・協働をしながら、複雑化・多様化した課題を解決に導いている。 教職員が児童生徒と向き合う時間的・精神的な余裕を確保している。
	D3 危機管理	・危機管理マニュアルを策定し学校の危機管理体制を整え、リスクの低減や危機発生時の的確な対応について、組織的に取り組む。(管・次)	危機管理マニュアルを策定するとともに、より機能するものとして改善に取り組んでいる。 児童生徒や教職員等の生命や心身等の安全を確保するため、学校の危機管理体制を整えている。 リスクの低減や危機発生時の的確な対応について組織的に取り組んでいる。
	D4 カリキュラム・マネジメント	・児童生徒や地域の特性等に基づき学校教育目標を設定し、その達成を実現する教育課程編成の方針を策定する。(管) ・学校教育目標の達成に向けて、学校や地域が持っている人的・物的資源等を効果的に組み合わせる。(管・次)	学校教育目標とそれに基づく教育課程編成方針を策定し、保護者や地域住民等の関係者と共有している。 カリキュラム・マネジメントに関わる体制、時間、設備・備品等の条件を整えている。 カリキュラム・マネジメントの推進に向けて、リーダーシップを発揮し、年度ごとに改善を図っている。
	E1 教材研究 (Plan)	・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の教材研究の質を高める。(次・管)	学習指導について同僚に適切な支援・助言をしている。 学校や地域の特色を生かしたカリキュラムを編成している。 教材研究やカリキュラム開発に取り組むことができるように環境整備を行っている。
	E2 指導方法 (Do)	・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の指導方法の質を高める。(次・管)	人材育成の視点に立って、教員の力量向上に向け、的確な支援を行っている。 自らの専門性や経験を生かして、学校全体の指導方法の質を高めている。 学校全体の指導方法の質を高める指導・助言を行っている。
E3 学習評価 (Check-Action)	・自らの専門性や経験を生かして、学校全体の学習評価の質を高める。(次・管)	評価の工夫改善を計画的・継続的に行うための校内の組織体制を構築している。 学年や校種を越えて児童生徒の学習成果を円滑に接続するための取組を行っている。 他の教員が児童生徒の学習状況やその質を捉える目を養うための働きかけをしている。	
E4 個への指導	・関係機関との連携を強化するとともに、教職員一人一人の役割を明確にした校内指導体制を構築し、その推進にあたる。(次・管)	学校の課題や方針を基に、組織を活用して生徒指導に積極的に取り組んでいる。 保護者や地域住民、関係機関に学校の教育姿勢を発信し、協力を求めている。 教員が意欲的に教育活動に取り組めるための職場環境づくりを意識している。	
E5 集団における指導	・児童生徒が所属する校内の様々な集団の状況を把握し、学校全体で改善・向上に取り組む。(次・管)	観察や情報収集等により校内の様々な集団の状況を把握し、担当教員の資質のみに頼るのではなく、学校全体で対応している。 生徒指導の方向性を教員が共通理解し、連携した指導ができるよう推進するとともに、児童生徒にも分かるように示している。 生徒指導がより効果的に行われるような視点で、学校運営を見直している。	
E6 ICT活用	・学校の情報化を進めるためのロードマップを策定し、実現を目指す。(管) ・保護者や地域、関係機関と連携し、情報モラルの指導を体系的に推進する。(次・管)	ICTの効果的な活用ができるようカリキュラム・マネジメントを行うとともに、情報化を進めるためのロードマップを策定している。 策定したロードマップをもとに、機器の充実や研修会の実施など、実現に向けた推進をしている。 発達段階を踏まえた「情報モラル教育」の指導計画を示すことで、保護者や地域、関係機関と連携しながら指導を推進している。	
E7 インクルーシブな教育	・地域の支援者との連携等を強化し、課題解決に向けた体制を構築するとともに、インクルーシブな教育の取組等の情報を地域へ発信する。(次・管)	校内の役割分担を明確にし、相談や情報共有等ができる校内体制づくりをしている。 校内の教員や校外の支援者と連携して、様々な課題をチームとして解決を図る体制づくりをしている。 校外の支援者等と連携を密にしながら、校内のインクルーシブな教育の取組や障がいの理解啓発に関する情報を地域へ発信している。	
E8 PBL	・PBLを中核に位置付けた教育課程を編成したり、人的・物的資源を組み合わせる支援体制を構築したりする。(次・管)	PBLの手法を計画的に位置付けた教育課程を編成・実施したり、評価・省察を加えて適切に改善したりしている。 地域の人的・物的資源を積極的に活用することで、生徒が積極的に社会参画できる環境の整備に努めている。 外部との持続的な学校支援体制を構築し、生徒が成果物を提示することで、地域の課題解決に貢献する学校づくりを実現している。	